

# 謹賀新年



## 令和6年 年頭のごあいさつ



大石田町長  
庄司 中

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えることと心からお慶び申し上げます。最初に、1月1日に発生した石川県能登地方を震源とする最大震度7の令和6年能登半島地震により亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

北陸地方を中心に余震が続き、現在も多くの方が不安を抱えながらの生活を余儀なくされていることと存じます。一日も早い被災地の復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年は、世界各地で記録的な気候となった一年でした。WMO（世界気象機関）が昨年11月に発表した暫定版の報告書によると、2023年10月までの地球表面の平均気温は、産業革命以前の基準に比べて1.4度高くなり、11月、12月の気温を考慮しても、これまで最高だった2016年のプラス1.29度を上回って、過去最高になることは確実とされており、また、世界各地で熱波が発生し、イタリアで48.2度、モロッコで50.4度など、記録的な高温が報告されております。

日本においても、真夏日や猛暑日の観測

記録を更新する地点が多くあるなど、夏の気温はこれまでの歴代記録を大幅に上回る猛烈な暑さでした。

大石田町でも大変厳しい暑さとなったことは皆様もご承知のとおりです。気象庁の観測データによりますと、記録が残っている1976年以降、尾花沢市内の観測地点における8月1か月間に35度以上の猛暑日となった日は、47年間で9日あり、1年間でみると令和2年の2日が最高でしたが、昨年は4日となり、過去最多を更新しております。また、30度以上の真夏日も26日と過去2番目に多い日数となりました。猛暑による熱中症の予防のため、大石田中学校の運動会が延期されるなど、私たちの生活は多大な影響を受けました。

農作物においても、猛暑の影響を受けております。特に町の基幹作物である「コメ」は、一等米比率が大きく落ち込みましたので、農業経営への影響が懸念されます。

地球温暖化の影響は今後も続くことが予想されますので、温室効果ガス排出量の削減の取組推進と合わせて、大雨による災害への対策強化や高温耐性品種の導入などを検討していかなければならないと考えてお

ります。このような状況の中、なかなか出口が見えなかった「コロナ禍」という長いトンネルをようやく抜け出せることができた年でもありました。

昨年の5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、これ以降、経済活動は徐々に回復し、県内外からも多くの観光客が大石田町を訪れております。

大石田町最大のイベントである「花火大会」は、4年ぶりにコロナ禍前と同じ規模で開催することができました。観覧者から拍手や歓声が上がっている様子を見たときに、開催して良かったと感じたところです。今年も多くの方に大石田町の花火を楽しんでいただきたいと思います。



昨年の夏は記録的な猛暑となったこともあり、大雨による水害は発生しませんが、以前とは雨の降り方が変わり、いつ令和2年のような水害が発生してもおかしくない状況にあります。

現在、最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクトとして堤防整備事業が進められております。安心して暮らせるまちづくりのために、町民の皆様の声を聴き、鋭意取り組んでまいります。

私は、昨年11月に町長に就任し、今後4年間の町政を預かることになりました。少子高齢化対策や雪対策、産業の強化など様々な課題が山積しておりますが、町民の皆様の声を大切にしながら、「子どもたちに私たち大人が住んでほしいと思ってもらえるまち」を町民の皆様と一緒に築き上げていく所存でありますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、今年一年が皆様にとって素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。簡単ではありますが、年頭のごあいさつといたします。

令和6年1月